

事務局 港湾局としては、アイランドシティ整備計画には当初から自専道の構想があったが、まずは海の中道大橋の4車線化など、アイランドシティ内の主要道路を新市場開場予定の26年までに整備することを優先して進めている。

業界が期待されている自専道は都市高速の本線延伸、つまり、片側2車線のフル規格道路の延伸であるが、これであれば、先程説明したとおり約10年程度かかるものと見込まれる。これを、市場開場に間に合わせるような方策として、片側1車線のランプ規格による整備や高速に代わる市道等の平面道路の整備など、早期の整備のためにどのような方法があるかについて、今後検討するよう担当部署に働きかける。

また、交通アクセスの問題では、既存道路を改良することによって、交通渋滞が緩和できるのではないかと等についても、自専道の問題と並行して再度働きかけていく。

委員 仲卸では、自専道の問題で、市場開場に道路ができていることを条件に市場移転を決めた経緯があり、現在では自専道が間に合わないのではないかと噂が広まり、市場移転に反対の声が多くなってきている。

委員 市場移転の条件が揃わないのであれば、組合内で再度、移転の是非を問う投票を行うように、といった意見もある。

自専道ができなくなれば、再度、組合内で話し合う必要があるため、道路の問題については、早急に回答をいただきたい。

委員 国に対して、自専道の話を含め、将来のアイランドシティの構想などを本当に話しているのか。

青果市場の移転という事業がある中で、市場の担当は本当にアイランドシティの担当と将来のアイランドシティについて話したり、働きかけたりしているのか。

委員 新市場のアイランドシティへの移転について、市場内で検討するにあたっては、道路の担当部署も入っており、当然、交通アクセスの問題など認識してもらっているため、自専道の整備に向け動いてくれるものと考え、また、早期に整備されるものという前提に立っていた。しかし、結果として、片側2車線の規格道路の延伸であれば、約10年程度かかるということであるので、それ以外の方法で早期整備ができないか、働きかけていきたい。

事務局 生鮮流通にとってはスピードが命であり、自専道が市場開場に間に合わないとなると、市場関係者にとって、由々しき事態であることは重々認識している。

しかし、市場の統合移転については、市の厳しい財政状況下においても事業実施が決定している今、また、国の事業採択を受けていることにより確実に補助金が確保されている機会を捉えて、本事業を計画どおり、平成26年度中の市場開場の方向で事業を進めていきたいと思っている。

そもそも、市場の移転再整備は今の青果市場の老朽化・狭隘化に対応するために一刻も早い再整備が必要だ、また、青果市場での建て替えができないからアイランドシティに移転しての整備が